

コード	402070102
記入日	H21.6.13

課コード	115
課名	農林課
課長名	田本耕一
担当者	古川利久

事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	ながさき県民参加のもりづくり事業
----------	------------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 19 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40207	基本事業名称	森林の公益的機能の維持増進	目コード	2
事務事業コード	4020701	事務事業名称	みどり思想の啓蒙普及事業費	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等	長崎県補助金等交付規則、ながさき県民参加のもりづくり事業実施要領	

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1)	町内中学校(2校)	(対象指標1)	136セット			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	県産材を使用した机椅子の導入。136セット。 森林学習の実施(間伐体験)	***	***	***	実施回数÷計画した回数	*****
		①	森林学習	2回	100%	平成20年度
		(達成率分析)	奈良尾、若松中学校を対象に、森林学習と木製の机椅子を導入。			
		***	***	***		
		②				
		(達成率分析)				
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
	生徒の森林学習の実施による理解と知識向上。人や環境に配慮する心を森林学習を通じ育て、豊かな人間形成を図り、郷土(地域環境)愛を育むことができた	***	***	***	森林学習参加人数÷計画した森林学習参加人数	*****
		①	森林学習	133名	100%	平成20年度
		(達成率分析)	奈良尾、若松中学校生徒を含め133人で環境に与える森林の働きや間伐体験等を実施した。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	①	回	4	3	1	2	2	1			
	②										
成果指標	①	人	418	168	35	133	133	250			
	②										
総事業費C (A+B)	千円	11,286	6,538	1,794	4,744	4,744	4,748				
直接事業費 A	千円	9,186	5,138	1,094	4,044	4,044	4,048				
人件費 B	千円	2,100	1,400	700	700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	4,657	2,657	657	2,000	2,000	2,000			
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	6,629	3,881	1,137	2,744	2,744	2,748				

コード 402070102

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由 事業実施をするために補助残分の負担が必要となる。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由 環境問題は、世界的な問題となっているため、生徒に森林を使った環境学習は必要だと考える。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由 森林の重要性が認識され、地球環境を考える力を養う。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由 環境問題は、これからの社会において考えなければならないと思われ、生徒たちの環境問題を考えるきっかけとなる。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由 森林環境学習の内容や体験などを変更し、よりよい学習が図られる。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由 既に、1校森林環境学習と机椅子の導入は実施しており、他校との平等性や今後の社会に必要な環境学習をやめる理由が見つからない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由 整理統合するような事業等がない
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由 県の補助金を活用しているため、経費の削減は難しい。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由 最小の人員で行っているため、削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由 条例に沿っており適正である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	森林環境学習において、生徒たちに環境に対する考え方に变化をもたらせ。木製に机椅子により、木の持つ癒しやぬくもりなど肌で直接感じられる。
		効率性	経費の削減は難しいが、事業量の節減努力を行う。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	子どもたちが、森林学習及び県材使用に机椅子を使用することで、森林の重要性が認識され、環境を考える力が養われる。
		効率性	1次評価のとおり

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。